

2025年度 第2幕張海浜保育園事業報告書

1. 園の概要

(1)基本情報

①園の名称:第2幕張海浜保育園

②住所:千葉市美浜区ひび野2丁目110番

電話番号:043-216-2255

Fax番号:043-216-2256

ホームページアドレス:<https://www.ainosono.or.jp/makuhari2/makuhari2-front/>

(2)在籍園児の状況(月別・クラス別)2025年度 在籍園児数年間人数集計表

	5歳	4歳	3歳	幼児計	2歳	1歳	0歳	乳児計	合計	定員に対する割合
4月	6	8	5	19	4	5	4	15	34	113 %
5月	6	8	5	19	4	6	5	15	34	113 %
6月	6	8	5	19	4	5	5	14	33	110 %
7月	6	8	5	19	4	6	5	15	34	113 %
8月	6	8	5	19	4	6	5	15	34	113 %
9月	6	7	5	18	4	6	6	16	34	113 %
10月	6	7	5	18	4	6	6	16	34	113 %
11月	6	7	5	18	4	6	6	16	34	113 %
12月	6	7	5	18	5	6	6	17	35	117 %
1月	6	7	5	18	5	6	5	16	34	113 %
2月	6	7	5	18	5	6	5	16	34	113 %
3月	6	7	5	18	5	6	5	16	34	113 %
合計	72	89	60	221	52	70	63	187	408	113 %

(3)定員充足率(毎年度 3月末現在)

2025年度	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
113%	119%	121%	116%	114%

(4)職員の概要 ※4月1日現在

【常勤職員】

園長 1名
主任保育士 1名
保育士 8名
栄養士 1名
事務員 1名(幕張海浜こども園兼務)

【非常勤職員】

保育士 3名
栄養士 1名

【嘱託医】

嘱託内科医 1名
嘱託歯科医 1名

2. 事業の概要

(1)中長期的な計画

①中長期的な視点と外部環境への対応

・定員30名に対し、20%増の36名を上限に見据えつつ、34名の受け入れを計画していましたが年間を通して33～35名で推移し概ね計画通りに受け入れることができました。
また、2025年4月に近隣で約270名規模の「バディスポーツ幼児園」が開園し園児獲得への大きな影響が予測されていましたが、大幅な欠員が出る事もなく年間を通じて110%以上の定員充足率を維持することができました。

②地域子育て支援に対する取り組み

・地域子育て支援として毎週水曜日10:00～11:00幕張海浜公園での「公園で遊ぼう」が地域の方に定着し始め園見学に繋がりました。また、昨年度までは猛暑・厳寒の時期には活動を中止していましたが、園内で開催することで一年を通して地域の方が交流できる機会を作りました。

(2)事業計画に基づく実績報告及び評価

①職場満足度と人間関係

・職員のモチベーションを高めるためには人的環境も大きく影響すると考え、学期毎の個人の面接以外にグループ毎の面接(座談会)を開き、離しやすい雰囲気作りが出来るように努めてきました。その中で休憩時間の確保はできているが、休憩の環境が保育室と近く、気が休まらないとの意見がありました。パーテーションで仕切るだけではなく休憩中に温かい飲み物が飲めるようにカフェコーナーの設置を行いました「一人の人間として気遣ってくれていると感じる」という回答が100%となり、心理的安全性の高い育成環境が整えられたと考えられます。
・職場環境に満足しているという回答は100%に達し、「職場の雰囲気」「協力体制」「相談のしやすさ」といった人間関係に関する項目も非常に高い肯定率へと繋がりました。
・休暇の取りやすさ事業計画の目標であった有給休暇の取得についても92.9%が「取得しやすい」と回答しており、良好な労働環境が整備されつつあります。一方で有給の消化率では個人差があり、管理職・リーダー職員の消化率が低いので業務のフォロー体制を整え「休める職場」を目指していきます。

②職員の成長実感

・保育者向けの1回15分完結型・オンライン園内研修システムHOINQを法人で導入した為短時間での研修が可能になりました。また、研修の為の準備に要する時間の軽減、研修内容を迅速に共有できるようになりました。
アンケートからも「この1年の間に仕事上で学び、成長する機会を持った」という設問に対し、職員の100%が肯定的に回答する結果となり職員の学びの機会になりました。しかし、71.4%の職員が「自分の判断に迷いを感じることもある」と回答しており、現場での意思決定をサポートする仕組みや、さらに自信を持って行動できるような育成より密なフィードバック体制の構築とが人材育成での今後の課題と言えます。

③業務改善・効率化

・園内のパソコン機器の入れ替えを行い業務効率向上のための環境整備に勤めました。しかし職員の50%が「業務量が多い」と感じており、更なる業務効率化による負担軽減が、今後の定着率を高めるための継続的な課題と言えます。また、製作準備等の持ち帰り仕事を削減し、AI機能を搭載した法人独自のGEMの活用方法を職員に広めたり、AI機能を保育のどの場面で導入できるかを示しながら業務効率向上に勤めましたが、継続的な取り組みが必要となります。

④インクルーシブ保育の実践

・園内のクラス会議だけではなく、エール幕張海浜の職員との連携会議を通して個別の保育計画

と達成目標を立て、日々を過ごすことができました。保育士だけでは目標到達は難しかった所もエールの職員と協力することで達成でき姉妹園にこども発達支援事業所のある強みを実感しました。

⑤施設

・大きな修繕箇所はありませんでしたが、経年劣化による電化製品の入れ替えが複数発生しました。今後も電化製品の入れ替え時期が重なることも考えられるので、計画的に数年かけて入れ替えと定期的なメンテナンスを行っていきます。

◎給食室 スチームコンベクションオーブン

◎エアコンの清掃

◎ピアノの調律 など

3. 財務の概要

(1)決算の概要

指標名	目的	目安となる数値	悪化した場合のリスク
人件費比率	支出のバランス確認	60% ～ 70%	設備投資への圧迫、または職員の離職
本業の収支差額比率	本業の黒字化確認	3% ～ 5%以上	慢性的な赤字体質への転落
事業活動資金収支差額	現金創出力の確認	プラスであること	貯金の切り崩し、借入返済の停滞
支払資金残高保有月数	資金ショートを防衛	2か月 ～ 3か月以上	不測の事態での資金繰り破綻(倒産)

① 人件費比率と収支のバランス

・約76.6%: 人件費 81,737,658円 ÷ サービス活動収益計 106,701,838円

・目安とされる60～70%を上回り、サービス活動増減差額(本業の利益)が5,384,459円の黒字となっており、高い人件費を維持しつつも収支のバランスは確保されている状態です。

② 本業の収支差額比率

・約5.0%: サービス活動増減差額 5,384,459円 ÷ サービス活動収益計 106,701,838円

・目標値である3～5%の範囲内に収まっており、本業においてしっかりと黒字を確保できている状態です。

③ 事業活動資金収支差額(現金創出力)

・10,264,432円のプラス: 事業活動収入 109,962,796円 - 事業活動支出 99,698,364円

・資金収支ベースでも1,000万円を超えるプラスとなっており、日々の保育運営から現金を創出する力は非常に高い状態です。

④ 支払資金残高保有月数

・約2.85か月分: 24,056,584円 ÷ 8,443,115円(1か月あたりの事業費用)

・指標である2～3か月以上の範囲に収まっており、資金ショートに対する防衛策は十分に行えていると判断できる状態です。

【総括】人件費比率はやや高めですが、本業の利益率、現金創出力、手元資金の蓄えのすべてにおいて健全な水準を維持していると言える状態です。

